

第9回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和5年2月20日（月） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎3階 特別会議室

■出席委員 13名（50音順）

朝日 ちさと会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、
春田 祐子委員、福井 博文委員、細野 佳苗委員、松野 茂樹委員

■欠席委員 2名（50音順）

宮本 太郎副会長、鷺尾 和彦委員

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、
池田主任、上川主任

■傍聴者 0名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 基本構想の構成について
- 3 その他

閉会

1 開会

出席委員数は13名であり、定足数に達しているため審議会は成立した。

【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料44）の確認を行い、修正等なく了承された。

事務局より1月27日に開催された多摩市子どもみらい会議の開催結果について説明。

事務局 各学校からESD教育の取組や生徒同士で話し合って作成した、「魅力となる建造物や環境の整備、パンフレット、マスコットキャラクターを作って多摩市の魅力をもっと伝えることで、持続可能な街を作ろう！」というメッセージの発表があった。

コロナのために3年ぶりの対面開催となった「多摩市子どもみらい会議」に企画課も参加した。子どもたちは数カ月かけて勉強してきており、担当課がやり込められる場面もあるほどだった。子どもたちも自分たちのまちを注目が集まるようなまちに、もっと活気のあるまちを作っていきたい、と危機感を持っている。それぞれいろいろなテーマで発表していたが、多摩市のこれからにつながるいろいろなアイデアをいただけたと感じた。

委員 このレポートと市長の話は大変感動的で勉強になった。せっかくの提案であり総合計画に生かしていかないといけない。内容も素晴らしいものばかりと感じる。これで終わらせず、提言にあった取組を検討する際、このメンバーにも声をかける等、多摩市のためにつなげていけるような仕組みがあればと考える。

事務局 各テーブルに職員を配置されているため、担当課が取組を検討する際に、今回の意見について取り入れていきたい。今後の連携継続については、子どもたちの中には卒業などで継続が難しい場合もあるが、検討を進めていきたい。

【2 基本構想の構成について】

事務局より資料45、46について説明。

○第1章 新たな基本構想策定の背景

委員 現行の基本構想では背景はなかったが、今回入れたことで良くなったと思う。基本構想は第一次から第五次までの課題を解決してきた積み上げがあり、重ねてきたことでまちを豊かにしていると感じており、そのフレーズを加えたらどうか。

事務局 最後の段落で、積み重ねを踏まえてこれからという記載の追加については次回までに検討させていただく。後程説明予定の基本理念で似たような内容が出てくるため併せて検討したい。

委員 どちらかというと、背景での記載が望ましいと考える。

委員 ○の4つ目の「その他にも～」のところで環境問題と少子化・高齢化は極めて重要な問題であるため、「その他」の扱いではないと考える。「温暖化による気候変動などの課

題や」とあるが、「地球規模の環境問題」とするなど「環境」という言葉を入れたほうがよい。5つ目の最後の書きぶりが「新たな基本構想を策定するものです」とあり、背景というより全体の締めの言葉となっているが、「多摩市は50周年を迎え、これからの50年に向けてスタートします」のように「次の50年」という言葉を入れられないか。

事務局 1点目の「その他にも～」のところは「また」等と変更する。
また、環境を含めるというご意見に対しては「地球規模の環境問題」等にしたい。
「次の50年」を記載するかについては、基本構想が10年間であるため、混乱してしまうのではという恐れがある。

会長 50周年にあたり、取組や事業は別途行っているのか。

事務局 大きなものでは令和4年7月にパルテノン多摩で50周年の記念式典の実施、その他としてタイムカプセルの開封、記念誌の刊行、50周年物語の制作等を実施している。

委員 「次の50年」を加筆する趣旨は理解できるが、世の中が加速度的に変化しているため、例えば企業でも10年先の計画はなかなか作れない。そうすると50年後はほとんどの人が想像できない世界であり、50年ということ自体、非現実的であると感じる。数字は出さないほうがリアリティの点でよいと考える。

委員 人口動向や税収などでは、数十年単位である。少子高齢化問題や市の運営は10年だけを見ていくのでは遅いと考えている。完全に見据えることはできないかもしれないが、長期的視野で見ないと次の10年がぼやけて、位置づけがはっきりしなくなると思う。

会長 「これから10年間」を「次の50年」と数字で記載するかどうかはともかく、長期的な予測をする場合、こうしたいという具体的な目的があるときは不確実であっても一言入れておく必要があると考える。「明るい未来」では少し弱いかもしれない。

委員 固定した50年後の将来像を見据えるということだけでなく、実施は、随時キャッチアップをしながら、ということになると考える。

委員 毎回この話になるが「ニュータウン開発に伴い大きく変貌し」のところで、内容はそれとおりのだが「ニュータウン開発」という言葉にどうしても引きずられる。多摩市全体を見ていないと感じる人が一定数いるのではと感じる。旧市街地側から見ると、またあちら側の話をしていると捉えられるのではないか。

事務局 おっしゃることは分かるが、多摩市の道路等の骨格はニュータウン開発関連事業でできた面があり、そこを踏まえると行政的な目線では「ニュータウン開発に伴い」となる。できればこの表現で進めたい。

委員 そこを「ニュータウン開発等」とすればよいのではないか。

事務局 表現がニュータウン単体になっているためにすっきりしないのであれば、例えば聖蹟桜ヶ丘駅も京王が昭和40年代に高架化したところからまちづくりがスタートしているので「民間の開発やニュータウン開発に伴い」等、民間の開発を含めた表現を含め検討する。

委員 「ニュータウン開発」は、要は「都市開発」だと思うが、「都市開発」とするだけでは意味が広がってしまう。

事務局 実際、既存地域の団地の民間開発が先行し、そのあとにニュータウンが進んだという歴史があるので、その経緯が分かるような表現にさせていただく。

委員 私のニュータウンの捉え方として、多摩市 50 周年と期を一にしてニュータウン誕生から 50 年であり、ニュータウンが市にとって重要なファクターであるには違いない。面積、人口の中でも大きな要素を占めている。ニュータウン以外の地域も頭に入れつつ、ニュータウンの位置づけは重要だと捉えてよいと考える。

会長 「ロシアによるウクライナ侵攻」とあり、平和について記載することはこれまでここでもご意見があったように大事なことだが、それまでずっと平和でいきなりこれが起こったというより日本がそこまでの影響を受けていなかっただけという面もある。社会的インパクトとしては大きいので象徴であると感じた。

○第 2 章 まちづくりの基本理念

委員 「3 持続可能な都市経営」で「DX の潮流などの社会情勢の変化に対して」という言葉を使っている。DX は流行り言葉であり、3 年もするとだれも言わなくなると心配している。「デジタル技術」「AI などの急速な進化」の潮流は間違いなく続くので、それを社会に生かしていくという表現に見直してはどうか。

委員 3 年後にだれも使わなくなる言葉は結構たくさんある。SDGs も 2030 年为目标であり期限が近いためその言葉の一つであると思うが、「理念」は言葉が変わっても根本は変わらない。平和は普遍的に望むものである。常に世界では争いが続いていて、日本も構造的な暴力等、戦争と本質的には変わらないものを内包している。そこにきちんと目を向けて差別、偏見、排除、抑圧、搾取などのないまち・家庭になることを入れてはどうか。人間以外の存在に対しても目を向けるような優しいまちを望む。そこを理念とすることで多摩市らしいものになるのではないか。

第 1 章の「しかし時代は大きく変わっています」の部分に、東日本大震災、コロナ、ロシアのウクライナ侵攻が入ってくるが、これからいったい何が起こるかと思うと、今私たちが目を向けていることを書き込む必要があるのか難しい。時代が常に変わっていることを考えると何を載せて何を載せないかも吟味する必要がある。

委員 2で、「環境、文化などの財産をより良いものとし、将来の子どもたち・若者たちへ引き継いでいくために、」とあるが、今ある良いものを引き継ぐ以外にも、その子どもたち・若者たちが新しく作っていくという観点が入るとよい。平和も文化も維持するではなく、作っていくとするとよいと考える。

委員 「3 持続可能な都市経営」で、「SDGs の理念を踏まえ」では読み手は何を言っているか分かりにくいので「だれ一人取り残さない」という言葉を入れると、平和についても含まれるのではないか。

会長 「1 多摩市らしい地域共生社会の実現」とあるが、地域共生ではなく「地域協創」と入れてもよいのではないか。

事務局 どちらの文言を使うか、担当とも相談して決めていきたい。

委員 創るという趣旨はぜひ入れていただきたい。「1 多摩市らしい地域共生社会の実現」の上に「自治基本条例の前文の考え方を踏まえながら、社会全体及び多摩市の現状と今後 10 年間で訪れると思われる環境変化等を想定して」とあるが、ここで 10 年間となっ

ていることが気になっている。第1回審議会資料の「総合計画改定方針」の中で「長期的な視点を持ちつつ、刻々と変わる時代や社会情勢に対応可能なつくりにするため、令和14(2032)年度を目標年次とし、～」とある。より幅広いこの言い方のほうが理念としては適切ではないか。

会長 基本構想が10年ということはあるが、先ほどの「今後50年」という表現を含めて、この表現は現状を踏まえて何年と区切ることに意味があるのか等、検討いただきたい。

委員 平和という言葉の重要性は出ていたが、「安心」はあるものの「安全」という言葉がない。昨今、事件なども起きているため、平和で豊かに安全という言葉があってもいいのではないか。

委員 安全に絡めて、自然災害への対応も含むとよい。災害が懸念される地域に住む市民は常に災害に対して不安を抱えながらの生活となる。

委員 「安全」について、食のリスクマネジメント等では安全とは言い切れないので安心と一緒に使うことはある。暮らしと言ったときに安全か安心か、言葉を選ぶ必要はある。

委員 「3 持続可能な都市経営」で「SDGsの理念を踏まえ」とあるが、この表現では都市経営について踏まえるものはSDGsしかないということになる。災害対策、安全の問題等も踏まえて都市経営をしていくとしたい。

また、「日本のみならず国際社会を意識した都市経営」とあるが、これが何か分かりづらい。ここでは抽象論ではなく多摩市の都市経営をもう少し具体的なイメージが湧く表現にしてもよいと感じる。

会長 SDGsは多元的なので安全、災害も入ってくるが、それを出したほうがよいとのご意見をいただいた。「国際社会」には具体的な背景があるのか。

事務局 前は「自立的な」と言っていたところを今回「持続可能な」に変更した。SDGsはそれぞれが当事者意識を持たないと目標が達成できない。そこを「日本のみならず国際社会を意識した」と表現している。第五次と表現は同じだがニュアンスが変わっている。

委員 前半でSDGsも含め、国際社会の流れを受けて考えている。「踏まえ」で切っているので後半が分からなくなっている。

委員 国際社会を意識したとあるが、企業経営では外国人を受け入れ、それぞれの生活習慣等に対応するなどしている。そういったことを意識しているものではないのか。どこまで意識しているかという話だと思う。今後50年の外国人増加も想定しているのか。SDGsの中で国際、と読むのか、そうではなく国際社会を意識しないとやっていけないことを前提にした表現なのか、はっきりさせておいたほうがよい。

委員 「1 多摩市らしい」、「2 平和で豊かなまち」、「3」で多摩市らしさがありつつ、でも閉じていないとなると、多摩市から外へ広がる流れがあり、夢があってよいと感じる。

委員 持続可能な社会がどういう社会か書かれていないのでイメージしきれない。国際社会を意識したとのことだが、多様な人が住むまちとも捉えられる。前段の「SDGsの理念を踏まえ」、のあとにどのような多摩市であるかについて記載がない。

委員 本質的な問題で、どのような姿を目指すかで変わる。先ほどの話のように50年先、日本経済は日本人だけでは成り立たなくなってしまうと予想されるので、そうすると外

国人がたくさんいる世界を考える必要がある。10年先であればまだそれほど変わらない。何年後の未来の姿をイメージするかによって大きく変わるため、表現を工夫したい。

委員 ここでSDGsだけを踏まえていることは適当でないと思う。SDGsには17の目標があり、貧困、衛生問題などは多いが都市づくりについては一部分に書かれているだけとなっている。多摩市の基本構想で踏まえるべきものはSDGsにももちろんあるが、具体的な解決すべき問題を踏まえて、具体的な課題をあげることも有効と考える。

会長 具体的なキーワードを入れて成り立つのか。また、持続可能ということではつながるが、SDGsの理念だけを踏まえると捉えられることは問題がある。

委員 むしろ持続可能という言葉の方が普遍性をもっている。

委員 本文には「持続可能」という言葉は使われていない。結びに「持続可能なまちづくり」が入るべきだが消えていると感じていた。環境問題に対する持続可能な社会、それがないと持続可能ではないというところから来ているが、SDGsとなると広い概念でこの言葉が使われ始めていて、貧困、少子化などいろいろな社会課題を解決しないと持続可能な社会ではないということで、持続可能という言葉が派生していつている。今では持続可能という言葉ではそちらをイメージされる方が多い。その意味では持続可能な、と表現したほうが分かりやすいかもしれない。SDGsのところは、だれ一人取り残さないという理念を引用しているだけで、SDGsの目標全部を引用しているということではないのであればいいのではないか。

委員 理念であれば、理念をはっきり書いた方が良く考える。

会長 目標に引っ張られないほうがよい。多元的にいろいろなことを意識していかななくてはいけないというメッセージは大事なもので、それが伝わる形で再検討いただきたい。

事務局 安全、安心の部分ははっきり書いていない部分は確かにある。最後の話はなかなか難しいが、それを含めて検討したい。

委員 SDGsの「だれ一人取り残さない」というフレーズが一般的に知られているが和訳は「取り残さない」より「だれ一人取り残されない」が正しいという意見もある。「取り残されない」のほうがもっと優しい概念として多摩市らしいと感じる。

また、「3 持続可能な都市経営」の上に「関連する委員意見」として「(子どもが)文化体験をできるまち」とある。文化芸術ビジョン検討委員会がこの審議会と同時に動いており、先週土曜日のWSには25名ほどが参加した。小さいころから文化芸術体験に触れるような環境を作っていくことで、子どもたちは心豊かに育ち、様々な事象を柔軟に受け止め、自分と違うものに対して広い心で対応できるようになることなどが話し合われた。ここで「文化」だけでなく映画、文学、劇、伝統文化、伝統芸能等を含めて、文化体験を文化芸術体験にさせていただけるとありがたい。

○第3章 将来都市像

委員 仮案を基本に考えてきた。代案1、2の内容も理解・共感できるが、将来都市像としてはストレートに像を示したほうが良いと考える。「思いやりと支え合いがあふれ」「共に生きる」は、ふわっとした表現になっている。私は仮案を基にしつつ、何が成長して

いくのかが分からないので、言葉を足して「だれもがいきいきと暮らせ安心と成長をずっと続けられるまち たま」のように、具体的な生活像を入れるとよいと考える。

委員 将来都市像の検討では暮らしている市民が中心となることは分かる。ただ「みんなが」では多摩市に通ってくる勤労者等も含んだ表現になるが、「暮らしている」「市民」などでは排除されてしまうと感じる。都市経済ではそういった人たちが成長に関わってくるので、非常に大切な要素になる。その辺りも配慮した表現が良い。

委員 どの案にも「成長を続けられる」という文言があるが、社会がずっと成長し続ける時代ではなくなってきているのではないか。成長していかなければいけないとすると、苦しいと受け取る人もいるのではないか。ここは工夫をしたほうがいい。

委員 資料 45 の 3 ページでは成長がどういうことか書かれている。単に「経済成長だけではなく、市民それぞれが自分を高め、目標を実現できている」とあり、必ずしも経済的なことだけではなく活動自体に価値を見出すと謳っている。そのことを示しながらこの将来像を掲げるとよい。

委員 社会は転換期にあるはずだがまだ経済成長をどうやって起こしていこうかというところでいろいろな社会問題を引き起こしていると感じている。そこに敏感な若い人たちは、高度経済成長期を経てきた人たちと違い、「何を言っているのか」と思うのではないか。今の社会をこれからどうしていくかについて、この閉塞感の中で自分たちはどのように仕事を作っていくか等を考えている。下に考え方が書かれていることは分かるが、言葉のイメージがあると思う。

委員 これからの希望を持つということでは、この言葉はふわっとしていながら目標を持っていてよいと考えていたが、このコロナ禍、現実の社会にそぐわない、現実味がない。社会的な痛手を負ったり、変動があったりした中で思いやりと支え合いがあふれた状態にしたいという気持ちは分かるが、思いやりと支え合いがあふれる福祉も含めた地盤、支えがあってはじめて安心してというところにつながると思う。

希望的なものとする、そういう世界になりたい、という気持ちかと思いつつ、もう少し現実味があり、困難な社会を皆で乗り越えた後、思いやりと支え合いが生まれると思う。そういうことが含まれたほうがより現実的だと感じる。

会長 「みんなが笑顔」もそうだが、こうありたいという言葉が浮いてしまうと効果がない。そういう意味では「乗り越えていく」というような表現が合っているか。

委員 議論が戻ってしまうかもしれないが、主語があったほうが市民の心に刺さると思う。先ほど、仮案をベースに考えたかどうかとの意見があったが、仮案では「みんなが」「だれもが」という言葉があったほうがよいと感じる。

委員 「いきいきと暮らせ」では多摩市しか見ていないというニュアンスになるかもしれない。「いきいきと暮らし、活動し」にしたらどうか。それにより昼間働く人も含まれる。

委員 今の「活動」という言葉から、「みんながかがやく」という言葉であれば動きや希望が表現できるのではないかと思ひ、「みんながかがやく支え合うまち」などとするともよいのではないか。今の案はかなり長いので、だれにでも当てはまるようなもので、また「支え合う」という言葉は大切にしたい。

委員 将来像は今後多摩市の広報紙などで何度も使用される言葉となるので、今の仮案くら

いの長さが適切だと思う。

会長 短くする点には共感する。「将来都市像」についてはこれまでの議論や考え方を踏まえながら、事務局にて検討をお願いしたい。

○第4章 分野横断的に取り組むべき重点テーマ

委員 分野ごとの取組では拾い上げられない共通するところを横断的に取り組むことはよい。構成としてはこのまま第4章とするか、第5章の頭に置くかが考えられる。

会長 今までの流れでは重点テーマの位置づけが分かりづらいので、基本構想、計画、重点テーマの図を示すと分かりやすくなる。これを基にいろいろなことができるようになるところはあるので、今回は強調して第4章としてもよいと考える。

委員 重点テーマがこの3つでよいかまだ確信はないが大枠は良いかと思う。「健幸まちづくり」の説明で、「だれもが、それぞれに生きがいを感じ」とあり「それぞれに」は将来都市像にもあった。「それぞれに」が必要かどうか気になる。それぞれが生きがいを目指せばいいというトーンなのか、みんなが生きがいを持ってということなのか。「それぞれに生きがいを」というのは、あなたがそれで幸せならいいです、と分断するようなニュアンスが感じ取れるので慎重に使ったほうがよいと思う。

会長 「だれもが」でよい気もするが、あえて「それぞれ」で多様なところを認め合うと強調する必要があるのかとも思うし、それがかえって分断的な意味とも捉えられるとなると難しい。

委員 そこについて私は反対で、成長についての価値観はそれぞれ違うので、将来都市像では「それぞれの成長」とあえて「それぞれ」を入れたほうがよい。重点テーマの【健幸まちづくり】では入れても入れなくてもよい。それこそ経済成長等の一つの枠組みの中で物事を考えられてしまう。それぞれできないこともあるのでダイバーシティの観点でもそれぞれという言い方が適切だと思う。

委員 「安全・安心」にそれぞれはない。「安全・安心」に「それぞれ」がかからない方がよい。

会長 確かに「だれもが安全・安心に暮らすことができ、それぞれが～」の語順のほうがよい。

委員 同様の意見だが、「それぞれ」がなくても「だれもが生きがいを感じ」で十分通じる。「健幸」で「幸」の漢字を使っているが、この言葉を使っている意図が文章から読み取れない。

委員 「健幸」を長く使っており、みんなが知っているだろうと思っているかもしれないが、初見の人もある。

委員 子どもだけでなく大人も生涯学ぶことが、「学ぶ」「成長する」としてどこかに入るとよい。入れる場所としては将来都市像の中が良いかもしれない。

委員 学び合い高め合い、関係性が生まれると思う。

会長 解説に文言として入れることも良いのではないか。

○第6章 行財政運営の基本姿勢

事務局 第5章「分野別の目指すまちの姿」は委員のご意見を受けて修正中で、次回お示しする。第6章については、説明資料そのものを本日初めて皆さんにご覧いただいております。次回審議会でご意見いただきたい。

【3 その他】

事務局 資料47「今後の日程について」で、今年度は本日第9回で終了となる。来年度は4月に2回、6日、25日に開催予定である。この2回で基本構想についてまとめていく。続く5月、6月で基本計画の議論に進んでいけたらと考えている。

【閉会】

会長 年度跨ぎで持ち越しとなるが、本日は貴重なご意見をいただいた。基本構想の完成にもまだステップがあるので、引き続きご協力いただきたい。
これにて第9回審議会を閉会する。

以上